

## 「農家泊体験」に関わるアンケート調査結果について

浜井場小学校 5 年生・下栗地区体験（7 月 21,22 日）

飯田市教育委員会

浜井場小学校の 5 年生が 7 月に「農家泊体験」をしました。その時に受け入れていただいた農家の皆さんの声です。

受け入れ農家数	11	回答数	10
---------	----	-----	----

Q 1 受け入れた農家の家族の人数。

人数	1 人	2 人	3 人	4 人
戸数	1	5	3	1

Q 2 今回受け入れていただいた児童数

人数	3 人	4 人
戸数	6	4

Q 3 農業体験（農作業）の内容

1 ジャガイモ掘り	9
2 ジャガイモ洗いやイモの選別	3
3 野菜（ジャガイモ以外）の収穫	1
4 野菜洗い	3
5 ブルーベリーの収穫	8
6 薪（まき）割り	3
7 畑の草取り	0
8 野菜の手入れ・世話	0
9 その他・具体的にご記入下さい。 （ ブルーベリーの選別・計量 ブルーベリーを使ってのジャム作り ）	

Q 4 農業体験以外の体験

1 食事作りの手伝い	9
2 食事の後片付け	8
3 部屋の片付け・掃除	4
4 布団の準備と片付け	8
5 周辺の散策	4
6 下栗の歴史・自然についての話を聞く	4
7 下栗の人々の生活についての話を聞く	3
8 その他・具体的にご記入下さい。 （ 横笛の練習 霜月祭りの写真やビデオ鑑賞 ）	

Q 5 「農家泊体験」を通して、子どもたちに学んで欲しいこと

1 下栗に住む人の生き方	4	2 下栗の歴史や風土	1
3 下栗の自然	5	4 家庭のぬくもり	4
5 だれとでも話をすること	3	6 農業への興味・関心	3
7 農家の苦労や工夫	3	8 野菜や果樹の栽培方法	2

9	新しいことに挑戦すること	4	10	最後まで頑張ること	3
11	誠実に仕事をする	1	12	友達と協力すること	4
13	自分のことは自分で	3	14	身の回りの整理整頓	1
15	自分の健康管理	1	16	挨拶やマナーを大事に	3
17	時間のけじめ	2	18	好き嫌いなく食べる	3

Q 6 浜井場小学校の児童の「農家泊体験」の取り組みへの評価

	強く感じた	感じた	あまり感じなかった	感じなかった
1	元気よく頑張った	5	5	
2	最後まで頑張った	4	6	
3	友達と仲良くできた	4	6	
4	挨拶がよくできた	7	3	
5	自分のことは自分で	6	4	
6	夕食作りのお手伝い	8	2	
7	下粟への関心	5	4	1
8	野菜や果樹への興味	2	5	2
9	農家の人との会話	3	7	1

Q 7 「農家泊体験」を受け入れるにあたって気をつかわれたこと（心配されたこと）

1	農作業の内容	2
2	子どもへの接し方（コミュニケーションのとり方）	5
3	会話の内容（話題作り）	2
4	子ども同士の関係（トラブルなど）	1
5	子どもの心の面（不安にならないか）	2
6	食事の内容	4
7	環境・衛生面	1
8	児童の病気や体調管理	6

Q 8 「農家泊体験」を受け入れて、うれしかったこと・よかったこと

1	子や孫ができたように思えた	5
2	家の中が賑やかになった（明るくなった）	7
3	張り合いができた	3
4	元気が出た感じがした	4
5	いい思い出ができた	8
6	昔を思い出した（子どもを育てた頃）	3
7	子どもと一緒に仕事できた	4
8	取れた野菜や果物を喜んでもらった	7
9	子どもと話ができた	3
10	子どもと遊んだり肩をもちたりしてもらった	2
11	下粟のことを理解してもらえた	1
12	下粟のことを気に入ってもらえた	8
13	農家の生活について理解してもらえた	1
14	下粟全体が賑やかになった	5

Q9 子どもたちとコミュニケーションをとるため（仲良くなるために、あるいはお互いに心を開くために）に工夫されたこと

子どもたちの希望する作業にした  
 名前を速く覚えること  
 夜時間を作り、ゲームをしたこと  
 朝、ラジオ体操を一緒にしたこと  
 自然体で、家族と思って接した(2)  
 大人から話しかけたり、子どもの話も聞いてやること

Q10 今回の受け入れについて困られたこと

食事の内容(1)

Q11 今後の「農家泊体験」の受け入れについて

1	1年に一回程度ならよい	9
2	1年に2～3回程度ならよい	1
3	4回以上でもよい	0
4	受け入れるのは今回だけにしたい	0
5	まだよくわからない	0

Q12 心に残るエピソードは

田楽芋用の皮をむきながら、合唱コンクールの課題曲を3人で上手な大きな声で歌ってくれました。  
 女の子たちが、進んでお手伝いをしてくれました。礼儀が正しく、言葉使いもよくとても感心しました。  
 帰った後、淋しかったです。子どもがいてくれたらと思いました。  
 何と呼んだらよいかと尋ねられたので、「おじさん」でよいと答えたところ「お父さん」と呼ばせてくださいということでしたので、お父さんと呼んでもらい親近感が高まる二日間でした。  
 とても元気が良く話す言葉もはっきりしていて、短い時間でしたが楽しかったです。子どもたちだけで寝るのは怖いと言ったので、お父さんがそばについて寝ました。別れる時は、涙・涙でした。  
 3人の子どもがお母さんと一緒に寝たいと言ったので、4人で枕を並べて寝たのが素晴らしい思い出になりました。出会いがあれば別れがあると言われるますが、お別れ会の際には、それぞれ涙で別れました。

#### 考察

下栗の人たちにとっては、思い出に残る大きな出来事であったように思う。子どもたちを家族の一員のように受け入れ、また子どもたちも親のように慕い、共に二日間を過ごすことで深い心のつながりができたように思う。そのつながりを大きな喜びと感じている。

下栗の人たちは、下栗の自然を気に入ってもらえたこと、そして自分たちが育てた野菜や果物を喜んでもらったことが、何よりもうれしかったと答えている。そのことで、今の下栗の暮らしのもつ意味（よさ）を自分たちで改めて認識することができたのではないだろうか。そのことが下栗の人たちにとって、大きな力 元気になる となる。

「農家泊体験」は、受け入れる農家と子どもたちの思いが重なり合っていないと成功しない。そのためにも農家への事前連絡、子どもたちへの事前指導が大変に重要となる。